

## 紅葉の植物園、外国人墓地へ 秋のハイク 25人が参加

無縁墓地で説明を聞く  
北区会の参加者▼

北区会秋のハイクは汗ばむほどの小春日和に恵まれた11月18日、森林植物園—再度公園—外国人墓地のコースを歩き、真っ盛りの紅葉を楽しみました。参加者25人は朝9時45分に神鉄北鈴駅前集合。

“密密”の直行バスで10時過ぎに植物園に到着。幹事の木田さんから「マスクを付け、密に気をつけて」と注意を受けて出発。

「わあ、きれい」と園内を眺め長谷池に映る赤・黄色の紅葉を愛でながら再度公園の外国人墓地へ。係員のガイドで甲子園球場の3倍といわれる山腹を切り開いた広大な霊園内を巡る。ここには2800人が眠るといふ。明治期に居留地で活躍し、パンや洋菓子の礎を築いたフロイドリーフさん、モロゾフさん、関学の創立者ランバスさんらの墓もあり、今もゆかりの人たちが墓参に訪れる。

きれいに整備された霊園内はキリスト教、ヒンズー教、ユダヤ教、ロシア正教など宗教別に区画され、墓石の形も十字型、ポール型、箱型と区々で面白い。

昼食を摂った再度公園の池畔はカップルや家族連れや外国人グループがわいわいとしゃぎ回り、かなりの賑わいだ。帰途は再度山公園から有馬街道の二軒茶



屋へ出て神鉄鈴蘭台駅に到着。16時ごろ解散した。好天と紅葉に恵まれ、木田幹事の行き届いたコース案内書と相まって参加者一同「大いに満足した」1日となった。

(取材 南形・写真 芦田、木田)

### ●ハイク参加者のアンケートから

参加者25人(男12、女7)にアンケートを実施したところ19人から回答が得られました。

「外国人墓地見学は初めて」という人が10人あり、「長谷池や修法ヶ原池の紅葉が良かった」という回答も11人ありました。特に「紅葉がきれいでした」という回答と並んで、「墓地埋葬者の歴史を知ることができて満足」という回答も16人ありました。今後行きたい名所は「六條八幡宮の流鏑馬」(7人) 大沢町の古寺跡(7人) 石峯寺(6人) 淡河城跡(9人) などでした。(木田)



園内には様々な形の墓石が並ぶ



燃えるような紅葉に囲まれた再度公園の池



# 梅林の世話は楽しいよ



## \*花山梅林会\*

春になると850本もの紅梅・白梅が咲き乱れる花山梅林。ここで15年も梅の世話を続けている花山梅林会の活動を紹介します。澄み渡った秋空の11月16日、花山小学校（北区）の裏山で作業中のメンバーを訪ね、代表の磯野彰夫さん（生環7期）に話を聞いた。

現在の会員は25人（女性は5人）。この日は10人が参加して梅林の剪定作業。込み入った枝をバサバサと切り落とし、絡まったツタを取り除き、雑草を刈り込む。高い木が多く急斜面なので高齢者にはつらいという。ただ、思わぬ副産物もある。木の根元ではカボチャが良く育つし、大きなシイタケも採れる。伐採した枝はチップにして堆肥にするが、カブトムシもたくさん育つ。

ひと汗かいたところでコーヒータイム。梅林の世話はどうですか、と聞いてみる。「自然を相手に汗をかくのは楽しい」「裏山を染める満開の花、



漂う香りがいいよね」「たわわに実る梅の実を見ると達成感がある」と元気な声が返ってくる。だが、共通の悩みはメンバーの高齢化と仲間が増えないこと。斜面での作業は危険も伴うので人手はもっともっと欲しいが、メンバーはせいぜい年に1~2人が入れ替わるくらい。「我々もいつまで出来るのか」と悩みを打ち明けてくれた。代表の磯野さんも会の発足時のメンバーだが、将来のことを考えると不安になるという。

梅林のスタートは2005年。花山小の6年生が卒業記念に植樹を続けてきたが、ざっと1000坪はあろうかという裏山一帯も2018年には植える場所がなくなり、植樹は中止となった。現在は実の大きい南高梅など7種類の木が大きく育っており、剪定や施肥、草刈り、梅の実の採り入れが主な仕事だ。天気が良ければ月に2回メンバーが集まり、お喋りしながら作業をする。

何といっても心が浮きたつのは、山全体が花に染まる2~4月と、6月の実の採り入れ。3月には地域の人や知人を招いて賑やかに観梅会を開く。6月に収穫した実は会員や児童、PTAで分けるほか、市価の25%くらいで一般にも販売する。収益は肥料や機具代に充てるという。

入会や年間作業などの問い合わせは、代表の磯野さん（583-5774）まで。

取材 南形徹 写真 芦田義和



写真は⑤剪定作業中の磯野さん⑥ティータイムにすぐ梅林会メンバー（11月16日）

ボランティアの現場 ⑤



# 発表会めざし4講座奮闘



## 10月～12月例会の活動状況

自由な趣味の会4講座の10月、11月、12月の活動報告は次の通りです。

【折り紙の会】11月例会は25日13時～16時30分、KSC園芸教室で。18人参加。講師は榊田みどり。講座は手ならしに鶴を折ってスタート。ポインセチアなどを折りました。1月例会は1月27日にたんぼぼセミナー②で。

●折り紙の本 日本折り紙教会から「おりがみ100」という本が出版され、講師からも「基本を学ぶには最適」と推薦がありました。定価は1000円。

【絵手紙・ハガキ絵の会】11月例会は12日正午から14時30分まで、KSC学習室4で11人が参加して開かれた。講師は野見喜昭。



連絡先は芦田義和（583-1196F）まで。

この日は描きたい身の回りの物（アクセサリ、ミニカー、置物、時計など）を持ち寄って自由に描いた。講師からは「色を濃くする方が写真写りがよく、見栄えがします」とアドバイスがあった。次回は12月10日（木）グループ学習室④で。年賀状を作成する。



1月例会は1月27日、たんぼぼセミナー室②。

【写真の会】11月例会は20日10時から12時まで、たんぼぼ研修室で、6人が参加して開かれた。講師は木村成男。今回は自由に撮影したお気に入りの写真を持ち寄ってプロジェクターで映写、批評会をしました。＝写真は会員の作品から。1月例会は22日、た

んぼぼ研修室。

（講師は木村成男 問い合わせも木村氏まで（581-1701））

【書道の会】11月27日に研修館③で7人が参加して開かれた。講師は藤沢淑子、連絡は土井昭政（583-8797）まで。この日のテーマは「尋芳」（花を尋ねて花を探し歩く）。講師から「バランスのとれた文字を書くには造形の基本的な考え方に基づいて書くこと。ポイントは水平、垂直、平行、等間隔、等分割、均衡、中心線一貫の7つ」との話がありました。1月例会は18日にたんぼぼセミナー②

## 書道～3度目のチャンス

生環9期 山崎 節子

私達の時代は高校の授業で書道の時間がありました。それが、きっかけで老後の趣味にと30年以上も前に近くの文化センターで習いはじめるも不真面目で、あの震災となってしまう、それどころでは、ありませんでした。

57歳でKSCに入学しましたが、卒業後に「北区会で書道の会を立ち上げたからは是非入会を」と講師の先生から勧められました。

講師は立派な経歴の方で、初歩から展覧会などに出展する創作文字まで、きめ細かい指導をして下さっています。これが、三度目の大きなチャンス到来でした。

昭和・平成・令和と生きてきた証に「令和元年」という文字を書いてほしいと先生にお願いしたところ、快諾頂き、それを手本に頑張って練習を重ねました。何度も添削して下さいまして、何とか作品が完成。表具店で表装して頂き、床に飾り、「日々之好日かな」と、幸福感に満ちている、今日この頃です。

これも、「書道の会」の活動計画、練習場の確保など、お世話して下さいの方々のお陰と感謝しております。皆様との「月いち和気藹々の会」が、いつまでも続きますように、厚く心より感謝申し上げますと共に御礼申し上げます。

これからの生活の中で「毎日コツコツと少しずつ」をモットーに、自己研鑽を積みかさねて参りたいと思います。

趣味人



# 趣味の会 3月4～7日に合同発表会

## 趣味の会総括幹事 道満俊徳

コロナ禍でのびのびになっていた北区会自由な趣味の会4講座（書道・絵手紙ハガキ絵・写真・折り紙）の発表会は3月4日～7日にしあわせの村本館2Fギャラリーで開催することになりました。

年をとってから、習いごとを始める、学問を習い始めるのに遅すぎることはないのは当然です。自分が習いたい気持ちがあれば、何歳でも始められる。知識欲に限りはありません。年をとってから習い事をするのは、それまでの経験が土台となり、新たな発見にも、大きな喜びにもなり、とても有意義なことだと思います。

北区会は数年前に認知症講座を始めました。その後、脳トレ実技編として2018年8月に自由な趣味の会4講座を企画したところ、多くの会員が参加されました。各会とも月1回開催と決めて、運営を続け、早くも3年目になりました。会員は作品作りに日々邁進され多くの秀作が出来ました。

その作品をこの度、北区会や村を訪れる皆さまに披露するべく作品発表会を開催することにしました。当初、昨年5月に開催を予定しましたが、この期間はコロナの非常事態宣言もあり、中止となったってしまいました。その後、改めて再開を検討、3月初めに実施することになったものです。

## 400本の桜トンネル歩く

4月に千苅・有馬 歴史ハイク

春の「北区の歴史の道を歩く」は令和3年4月2日（金）に「武庫川・有馬川の桜つつみ回廊と千苅の桜を巡るコース」を計画しています。

兵庫県は、平成3年度から平成12年度にかけて、瀬戸内海から日



本海を結ぶ延約170kmの河川沿い（武庫川～篠山川～加古川上流～円山川）を約5万本の桜でつなぐ「ふるさと桜つつみ回廊」を整備しました。

今回のコースは、神戸電鉄道場駅を出発し、有馬川沿いに平成2年から、「街づくり事業・桜つつみ回廊」として整備された、約2kmに及ぶ約400本の桜のトンネルの下を歩きます＝写真）。

途中、「旧街道の宿場跡」や大正4年に開通、昭和18年戦争激化で不要不急の鉄道として廃線になるまで三田と有馬温泉を結んでいた「有馬軽便鉄道跡」「厄除け・交通安全祈願の塩田八幡宮」、北神の桜の名所「千苅貯水場」と国の文化財「千苅堰堤」を巡ります。JR道場駅から三田駅を経由して帰途につく、歩行距離約10km、歩行時間約2時間30分の家族向けコースです。ご家族、お友達を

お誘いいただき、皆様のご参加をお待ちしております。お問い合わせは、木田育義・生環16（090-6679-6930）まで。

## フレイルチェック会に参加して

12月16日に北区会のフレイルチェック会に参加（9名）しました。会場は、たんぽぽの家多目的ホールで13時30分より北区市民サポーター（10名）の紹介、フレイルの説明後、フレイルチェック（簡易チェック）食事・運動・社会性⇒フレイルチェック（深掘りチェック）体力測定（手足の筋肉量）の測定⇒結果及び説明とアドバイス⇒リピーターの体験談と続き、15時過ぎ解散となりました。

フレイルチェック会に参加するに際して、フレイルに付いて少々調べてみましたが、「虚弱」とは、絶望的な言葉だと思います。自身はまだ若いと思っていましたが会で配布されたハンドブック等を見ますと「加齢に伴い、体重の減少、疲れやすさ、歩く速さや筋力の低下でこのままでは要介護状態になる可能性が高い状態」をフレイルと言うとあります。

今回のチェック会で感じたことは、ハード面では筋肉の衰え・食事（カロリー）のとり方、ソフト面では、ボランティア・趣味の写真撮影（歩行）・園芸等今以上に頑張り、機会があれば再度フレイルチェック会に挑戦してみたいと思います。

（取材・木村成男 園芸16）

**野見委員が急死** 北区会運営委員の野見喜昭さんが2021年1月1日、心臓病のため病院で急死されました。76歳でした。野見さんは筑紫丘在住。趣味の会の一つ、絵手紙の会の講師を発足時から引き受け、仲間の指導にあたってこられました。